



# 向陵広場

発行号 第76号

発行日 令和3年4月22日(木)

発行元 向陵編集校友会

責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

高野山真言宗「大福寺」副住職 堀口弘憲 県商 45 回卒 (平成8年3月)



寺の所在地 浜松市北区三ヶ日町福長 220-3

大福寺は、清和天皇の貞観十七年(八七五)に名僧教上人が富幕山(扇山)に開創し、幡教寺と称しておりました。

承元元年(一二〇七)大中臣朝臣時定卿が所領二五〇町歩を寄附し現在地に移しました。

その時土御門天皇から勅額を下賜されて「大福寺」と改称末寺塔頭三〇境内二町五反伽藍建造物二十を有します。

三ヶ日町方面から「大福寺」と刻まれた石碑の建つ参道入り口に至ります。参道を進むと鎌倉時代の金剛力士像を左右に配した仁王門があります。そこから本堂に向けて参道が伸びるが、途中、新東名高速道路が参道の下を横切ります。本堂には本尊薬師瑠璃光如来坐像が安置されています。

参道左側の正門を入ると、客殿、院、庫裏があり、その奥中門をくぐると庭園・宝物館があります。庭園は背後の山を利用した築山があり、阿弥陀三尊が石組みによって表され、西方浄土が想起される庭園であります。宝物館には金銅装笈(国指定重要文化財)・紙本墨書瑠璃山年録残篇(国指定重要文化財)・絹本着色普賢十羅刹女像(国指定重要文化財)等の貴重な文化財を所蔵します。

大福寺は大福寺納豆(浜名納豆)の寺としても知られています。この納豆は大福寺伝製で日本の元祖である。この特製の納豆は現在中国(明時代)の僧から伝来され足利七代将軍義勝、今川義元、豊臣秀吉、徳川家康以下歴代の将軍へ献上し御朱印の外に納豆料除地を下附せられ豊臣時代までは唐納豆と言ったのが徳川中期から浜名納豆と称する様になった。

文禄年中征韓事変定まるの日鎧櫃中にある唐納豆を祝盃の下物に充て、からさをおさめてまめと云う語に通ずる故吉兆であると賞せされた。特に正月には将軍家へ諸大名参賀の折り祝酒にはなくてはならぬものの様であった。

尚、薬味には山椒の中皮カラカワが入れてあり他のマネの出来ない珍味である。茶に酒に飯に添えて妙味、栄養豊富にして瓶、壺等の容器に入れ密閉保存すれば数か月は変味なし。



仁王門



本堂